

北九州市長
武内 和久 様

2024年10月8日

日本共産党北九州市会議員団

団 長 荒 川 徹
副 団 長 藤 沢 加 代
幹 事 長 山 内 涼 成
政 調 会 長 大 石 正 信
議 員 高 橋 都
議 員 出 口 成 信
議 員 伊 藤 淳 一
議 員 永 井 佑

北九州市民を戦争に巻き込む

日米共同統合演習「キーンソード25」に反対する申し入れ

民間空港の軍事利用を可能とする「特定利用空港」に、本年4月1日付で北九州空港が選定されました。昨年から今年にかけて全国の民間空港・港湾も、平時から軍事利用できるように新たに選定されたものです。早速9月20日防衛省は、今月23日から11月1日まで自衛隊と米軍による日米共同統合演習（実働演習）「キーンソード25」を実施する旨公表しました。

北九州空港においても演習を実施することを、本市は口頭で説明を受けています。これを受け、本市危機管理室は防衛省統合幕僚監部の26日付け報道資料を情報共有として本市ホームページに掲載しました。10月28日、30日の2日間の日程が明らかにされているのみで、真近に迫っている今回の「キーンソード25」の演習について、本市は「国管理の空港であるから空港関係者には国から通知がされる」「空港の安全性が保たれるのは大前提である」と述べるに止まり、小倉南区の小倉駐屯地第40普通科連隊50人も陸上作戦に参加、夜間訓練や空砲使用することも掘っていません。

日米共同統合演習は、1985年度から開始され、今回で17回目を数え、質量ともに回を重ねるごとに強化されてきました。今回の統合演習の目的は、「あらゆる事態に対応するための抑止力・対処力を強化」するためとし、わが党入手の防衛省「地元説明資料」によれば、北海道から沖縄県まで、12か所の民間空港・20港湾を使用する過去最大規模の日米共同での演習です。参加規模は、自衛隊が約3万3000人、艦艇約30隻、航空機約250機。米軍は、在日米軍のほか、インド太平洋軍、太平洋陸軍、太平洋艦隊、太平洋空軍、太平洋海兵隊、インド太平洋宇宙軍等約1万2000人が参加し、艦艇約10隻、航空機約

120機が展開します。また、「同志国」として豪軍及び加軍が参加するとしています。

北九州空港では10月28日に航空作戦と称し、米軍基地化された築城基地が攻撃され使用できない事態を想定し、人員30人、芦屋基地または小松基地の救護部隊の救難ヘリUH-60J1機が飛来、北九州空港を一時拠点に燃料の補給点検整備が予定され、岩国基地の対潜哨戒機P3Cも飛来します。また30日は海上作戦で岩国基地のEP-3、OP-3C、UP-3Dを使用、四国沖で実施する訓練の一時的拠点または中継地点として燃料給油点検整備を行います。

自公政権は、集団的自衛権行使容認、相手国の領土を攻撃する長射程ミサイルの配備、GDP比2%への大軍拡、武器輸出の解禁、日米の指揮・統制の一体化など、これまで憲法9条のもとで「できない」とされてきたことを、強行してきました。米国が対中国軍事包囲網づくりのための「統合抑止」を前面に掲げて策定した「国家安全保障戦略」を受けて、「安保3文書」が策定され（2022年）、空前の大軍拡と「戦争国家づくり」の“実践”がすすめられています。

自衛隊は常設の「統合作戦司令部」を新設し、「先制攻撃」を選択肢とすることを公然と明記している米軍の「統合防空ミサイル防衛」（IAMD）に参加し、本格的に米軍の指揮下に組み込まれようとしています。いま政府は、敵基地攻撃兵器として長射程ミサイルなどの購入・開発・生産を進めながら、沖縄・南西諸島を中心に九州・福岡にいたる「第一列島線」をミサイル基地化しつつあり、米軍が開始した戦争に自衛隊が集団的自衛権を発動して参戦し、米軍の指揮下で長射程ミサイルを相手国に撃ちこめば、報復攻撃を受けるのは当然です。北九州空港で、軍事訓練を繰り返せば、有事の際は北九州市民の生命と財産は危険にさらされます。市は「訓練は年数回程度」としていますが、民間機の離発着への重大な影響に対しては何も分かっていないのが実情で、何の歯止めもありません。

防衛省は北九州空港の特定利用空港の選定にあたっては、「所在自治体の理解を前提にしている」との見解を示しましたが、本市は、「国から説明を受けただけである」「国に意見を言う立場にはない」「防衛問題は国の専管事項」と繰り返すのみです。

市民の生命と財産を守る本市の責務を全うするよう下記の通り申し入れます

記

1. 北九州空港を利用する「キーンソード25」の演習の中止を国に求めること
2. 北九州空港の「特定利用空港」選定の撤回を国に求めること
3. 万一事故が発生した場合は、国の責任において迅速かつ適切に国が対処するよう求めること
4. 本市として市民及び空港関係者等の安全を図るため、近隣も含め自衛隊基地の情報を積極的に収集し、その都度報告し説明責任を果たすこと